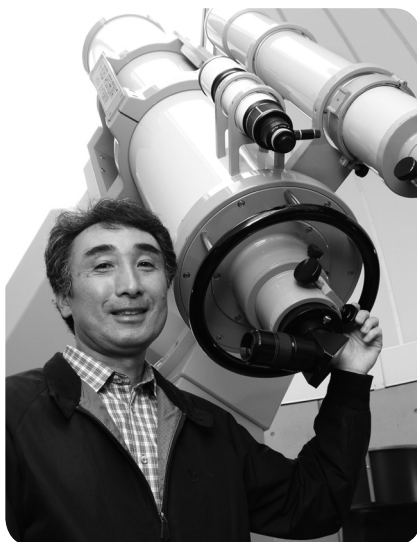


天体観察も いろいろな楽しみ方がある

さかもと八竜天文台 館長

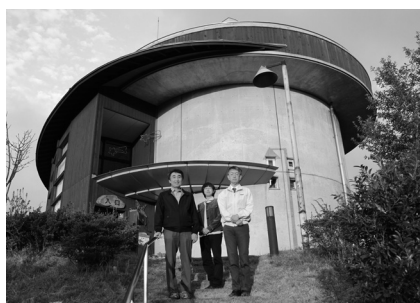
橋本 建司 さん (出町)



就活の合間、体がなまならないよう自宅周辺を走っていた。ふと山の方を見ると、八竜山の頂上付近の木が無くなっていくのに気づく。『まさか、あんなところに天文台とか立たないよな』と思っていたが、しばらく経って新聞で天文台建設の記事を目にし、ドキンと胸が高鳴った。1997年8月のオープン直後に観察指導員(解説員)として採用され、2004年から館長を務めている。

天文学との出会いは小学校低学年の頃。理科の教師をしていた父が持って帰った望遠鏡のカタログに描かれている土星や木星の写真を眺めているうちに、どんどん興味が膨らんでいった。「望遠鏡を買ってあげようか」と父。しかし、なぜか断ってしまった。しばらく経って思い直し父に頼んだが、八代に来ていた業者さんは既に立ち去った後。一度チャンスを逃すと、次のチャンスはなかなか巡ってこないことを思い知ったという。

小学4年生のとき、壊れた双眼鏡を家で見つける。分解してレンズを取り外し、使用済みのラップの芯に取り付け手作りの望遠鏡を完成させた。「夕方、屋根に上って月を覗くと、クレーターがはっきり見えてドキドキ。金星(宵の明星)を見ると、



▲さかもと八竜天文台。3人のスタッフが歓迎

太陽の光を受け三日月のようになっていて感激しましたね。小遣いを貯めて中学2年生になったとき直径10センチの反射望遠鏡を手に入れるまで、自作の望遠鏡で観測を続けた。

大学では理科の教諭免許も取得。卒業後、市内の小学校で臨採職員として3年間、理科の授業を受け持った。3年生から6年生までの9クラスを週27時間教えたことが、すごく訓練になったという。今でも、ゲストティーチャーとして市内の小学校や図書館などで、月や星についての出張授業を行っている。分かりやすいように手作りの模型を使ったり写真などを盛り込んだパワーポイントで説明。子どもたちに少しでも興味や関心が残ってくれればと願っている。

茶道が趣味の祖母と一緒に茶花ちやばなを探して回るうちに、植物にもだんだん詳しくなった。森林ボランティアの植物観察会の指導も担当した。これまでやってきたことが全て役に立っているという。

天文台からは球磨川や八代平野をはじめ、八代海、天草、島原などを一望。天気のいい日中は、太陽の黒点やダイナミックなプロミネンス、一等星のベガなど明るい星の観察ができる。

冬は夜が長く、一等星も多くなる。「北極星の周りの星を結びと、かわいいハートになり、これをポラリスのハートと言います」「12月14日のふたご座流星群観望会では、宇宙人に似たET星団も観察します」と楽しそうに話す橋本さん。天体の観察も、いろいろな楽しみ方がある。気軽に楽しんでほしいという。

目次

Table of Contents



2014.DECEMBER

No.120

- 3 STOP 地球温暖化
- 4 平成25年度 八代市 決算報告
- 7 母子保健事業
- 8 知っておこう 市県民税
- 10 やつしろ元気体操
- 11 高額介護合算療養費
- 12 障がいがある人への生活サポート
- 13 住民自治によるまちづくり
- 14 暮らしの情報
- 16 市民カレンダー
- 18 暮らしの情報
- 24 広告
- 28 まちのわだい
中国北海市の青少年友好代表团が来代
八代支援学校 新校舎落成
ひこいちハロウィンフェスティバル・彦一商店街
他10件
- 31 伝言板
- 32 火流の彩2015・年末年始の業務

今月の表紙



泉町は柚子の産地。現在約70軒の農家が柚子を栽培しており、昨年の生産量は37t。今後、生産量はさらに増加する見込みで、販売先

の開拓のため、柚子の積極的なPRが必要です。11月14日、JAやつしろと市の共催で、下岳保育園の園児を招いて「フードバレーやつしろ柚子の収穫祭」が泉町打越の西村義昭さんの柚子園で行われました。